

未来をひらく

竜爪山 九条の会

りゅうそうざん
きゅうじょうのかい

会報 2009年4月発行 通巻14号

発行 / 竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方

TEL・Fax 054-264-4918

E-mail ryusouzan9@ymail.plala.or.jp

URL <http://www3.plala.or.jp/ryusozan9/>



総務省のホームページから政策、国民投票法、資料へと進むと、この会報の表紙に掲載されたパンフレットが現れます。このパンフレットは、今後公的な機関で広く国民に配布（一部ではすでに配布済み）されていくことになっています。

このパンフレットを見ると、2年前安倍元首相によって強行された「憲法改正国民投票法」が施行されるまで、あと1年と迫っている現実には否が応でも引き戻されます。

安倍元首相が政権を投げ出し、憲法改正論議が下火になり「憲法改正国民投票」が何か過去のことのような錯覚に陥りがちですが、間違いなく1年後にはこの法律が施行されます。今後色々な形でこの法律を実施しようとする策動が行われていくと思われまます。

最近では海賊対策と言う名目でのソマリア沖への自衛隊の派遣。また、北朝鮮の「飛翔体」への政府の対応と異常な報道。「飛翔体」に関しては、韓国のマスコミは「日本はまさに戦時体制に入った」とさえ報道されていたそうです。

このように私達が知らないうちに憲法改正があたかも当たり前であるかのように思わせる環境作りが行われていると思うのは穿ちすぎた考え方なのでしょうか。しかし、私達はどんな小さな策動を見逃すことなく、この法律が決して日の目を見ないような社会環境をつくっていくように頑張っていかなければいけません。

さて、このたび「日本の青空」第二弾として、『いのちの山河～日本の青空～』製作及び上映活動がすすめられています。この映画は、岩手県の寒村で“豪雪・多病・貧困”に立ち向かい見事に克服。「自分たちで命を守った村」として多くの注目を集めている村の闘いを描いています。

「竜爪山九条の会」では2周年記念総会で、この映画の普及活動に静岡市で中心的に携わっておられる小林豊子さん（医師）をお招きし、この映画を多くの方に鑑賞していただく意義などについてお話いただきました。

日本が誇る憲法9条及び25条。そのどちらもが今危機に瀕しています。子々孫々までこの平和な日本を引き継いでいくため、手を携え日本国憲法を守っていきましょう。

「発会2周年の集い」を開催

参加者は45名（うち会員は39名）

3月8日（日）
西奈生涯学習センター
ホール



今回は、会場使用の制約上、参加費をいただくことになり、参加者（欠席の方も）にはブックレット『人間らしく生きる』を、配布しました。また、講師の小林豊子先生からは講演の資料と共に、お嬢さん朱実さんの著書『13才 私が見たもの』が、参加者に贈呈されました。

講演のあと、28名の出席で総会が行われました。

五井事務局長の司会で始まり、栗田ひろし世話人代表のあいさつのあと、三輪事務局次長から活動の経過と、これからの活動について報告が行われました。引き続き、会計報告が行なわれ承認されました。そして参加者より次のような意見がありました。

アフガニスタンで亡くなった伊藤和也さんの写真展を開きたい

身近な方から戦争体験を聞き、若い人に伝えたい

活動費のために、フリーマーケットをやっているの、眠っている古道具などの提供をおねがいしたい

回覧用

13才 私が見たもの

中1 自主研究「自衛隊はあって良いのだろうか？」

小林朱実 著



「ごちなく生き、スマートに逝ったわが娘からのメッセージ」
別冊

編集・発行 小林 豊子

この冊子は、28歳の若さで亡くなられた朱実^{すみ}さんの遺品の中から、中学1～2年生の時の自主研究「自衛隊はあって良いのだろうか？」を母親の小林豊子先生が編集・発行されたものです。「私は、朱実のこの世のマネージャーのつもりなの」とおっしゃる豊子先生は、この冊子を増し刷りされました。13才の朱実さんの感性に共感された方は、きっと誰かに伝えたくになります。

残部がありますので、ご希望の方は事務局へご連絡下さい（無料）。なお、「竜爪山九条の会」のホームページでも全文を読む事が出来ます。

記念講演の感想

宮 秀雄

小林豊子氏は夫君とともに長年開業医として当地で良心的な医療を、とがんばってこられた方です。現在は老人ホーム施設長として介護の第一線でも活躍されている方です。彼女は私の妻の兄嫁の親戚でもあるのでどんな話をしてくれるのかな、と興味を持って参加しました。

最初に映画『いのちの山河～日本の青空～』の制作委員を引き受けることになったいきさつと、撮影進行中の映画制作支援・上映協力を訴えました。

次に最近の「後期高齢者医療制度」だけではなく、じわじわと進行中の数々の医療費抑制、社会保障制度の改悪、切り下げの動きを批判しました。また、アメリカの軍事戦略と一体の自衛隊という名の軍事費の増大に危機感を持つと強調しました。

そして「憲法を暮らしに活かす」ことの大切さを、「廃用症候群」を例に引いて話されました。人間の体は普段使わないでいると衰えてゆく、日本国憲法がいかにか画期的で、人類の英知の結晶であっても、使わなければ衰え、ついには死に体になってしまう。つまり、憲法を武器にして運動してゆきましょう、と話を締めくくられました。

主張したいこと、訴えたいこと、伝えたいことがあまりにも沢山ありすぎて、お話の内容が盛りだくさんなために総花的になってしまったきらいはありました。このことは小林先生の責任では断じてありません。時間が余りにも短かすぎました。医療や介護の現場でのリアルなお話をもっとお聞きしたかったです。しかし、憲法を暮らしに生かし、社会的弱者を大切にす国、社会、地域であってほしいと強く願って運動を続けておられる彼女の熱意は十分伝わったと思います。皆さん『いのちの山河～日本の青空～』の上映会をここ静岡でも成功させましょう。

講演の全文を、ホームページで読む事が出来ます。



発会2周年の集いに参加して

関 研一

憲法 第25条

1 すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

2 国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

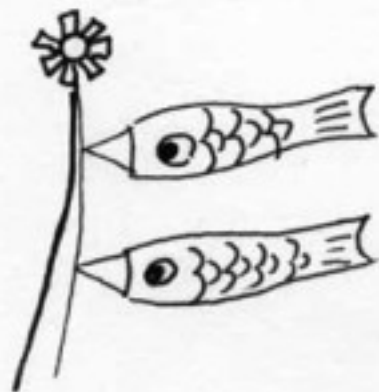
今日、憲法成立時に目指した理念の方向に進んでいるだろうか。自衛隊の拡大強化が続き、在外米軍基地は日本が最大となり、構造改革の一環として規制緩和、自己責任論が声高に語られ、その中で各人の医療費負担が増加し続け国民の生活を圧迫してきている。

憲法が施行された時、経済的にあんなに貧しかったが、少しずつ現実化されればという夢は明日への希望をかき立ててくれたと同時に、蚕食されるたびにヒリヒリと痛みを覚え、それがだんだん強まっている気がする。

だが、安保条約が改悪され、学校では国旗・国歌が強制され権力による個人情報一元管理、盗聴、メディア規制など国民統制を可能にする法律が制定され、ついに「憲法改正国民投票法」が公布され、発効が来年の5月に迫っている。

そうなるのを許しているのは、時には眉をひそめつつも、普通の私たち自身である。「昨日と今日は変わらないし、権力の弾圧を受けたことはないし、毎日の生活に特に不自由を感じることもないし、第一日々の生活で手一杯で仕事もあるし、権威筋の言うことにも一理があるような気もするし、まさか、あんな戦前の様な時代が来るなんて想像も出来ない」などと、自らに言い訳しながら。

今、我々は疑問や違和感を見過ごし、やり過ぎたりしないこと、考え続ける事。そして表現し、思いを相手に伝え続け、その輪を広げることが大切である。



おすすめ ブックレット



暉峻 淑子 (経済学者)

「どうしてイラクの子供が殺されなければいけないのか」と、自分の子供時代、戦前軍国主義教育下の体験を踏まえ、最近の教育現場に忍び寄る軍事文化、軍国主義化に警鐘を鳴らす。さまざまな差別意識が戦争の正当化に利用され、また民衆を駆り立ててゆく、としてブッシュ、ネオコン軍需産業によるイラク侵略を批判。

湯浅 誠

昨年暮れの派遣村等の一連のマスコミ報道で一躍有名人になった氏は、ワーキングプアやホームレスの急増と問題の深刻な実態を語る。そして彼らに今や自衛隊が着々と触手を伸ばしている。これはアメリカだけの話ではなく、不況が最も深刻な北海道では特に急ピッチで進行している。そして「掘り崩される9条」と題して、格差、貧困の問題と軍隊の問題が実は深く結びついている現状を指摘。私事で恐縮ですが、東京でアニメーターとしてひとり暮らしをしている私の息子もワーキングプアなので他人事ではない。月収8～10万円では生きてゆけないので、ネットカフェ店員の深夜勤務アルバイトをして、なんとか「生きている」。身につまされて読んだ。

大江 健三郎

憲法改定は民衆の生活の変化をもたらすことを、トルコの著名作家で友人でもあるパムク氏との交流の経験を交えて指摘。そして著書「沖縄ノート」批判への反駁。次いで、彼の戦後の生きる上での原理として、9条・13条・25条を中心とする憲法に感銘を受けたこと。最後にこれから憲法改悪の動きと闘ってゆきたい、と締めくくった。

(文責) 宮 秀雄

ブックレットは300円です。若干残りがありますのでご希望の方は事務局へ。

大坪 昌平

おおつぼ しょうへい

アメリカから新しい波が生まれようとしている。皮膚の色を超えて連帯しようと言うのだ。

赤茶けた砂漠に一筋のオアシス、ナイルの畑地帯、ここには数千年に及ぶ、一神教の戦いの歴史がある。白い皮膚キリスト教、十字軍、褐・黒の肌イスラム教、アラールのほかに神はなし。仏教、万物に仏心あり、釈迦、いきとし生けるもの、木石を尊ぶ。

私は旅行が好きだ。外国から帰る、機の窓外は、いつも緑の平穏な姿をしている。絵も好きだ。若い頃から緑を基調とする水彩画を描いている。

道路信号も、赤い血のいろ、危険、死。緑、安全を示す。

竜爪山九条の会は、平和の礎、緑のハートをもつ人達だ。この仲間の一人であること、日本に住むしあわせを思う。(2009年1月)



『山峡の新緑』2003.5.4 大坪昌平画文集『光を捉える』より

中川順一郎先生を偲んで

中川 百代

中川先生が御逝去されてから、四ヶ月がたちました。

私には、地域史の編纂、竜南地域美術展、静岡古文書研究会などの折に、いつもお声をかけて下さり、先生の暖かなご指導のもとに、御一緒に活動させていただきましたことを感謝するとともに、心より誇りに思っております。特に思い出に残っておりますのは、古文書研究会の行事として「江戸時代の瀬名の暮し」と題して、劇を公開した事がありました。その劇の中で、先生はかつらをかぶって府中の大商人の大胆那を演じ、大好評を得ました（平成13年）。その時の楽しかったことは言うまでもありません。先生も乗りに乗っていらっしやいましたことを覚えております。

昨年十月に開催された竜南地域美術展のことでした。先生の出品されました御掛軸には「幾山河越えさり行かば寂しさの はてなむ国ぞ今日も旅ゆく」と若山牧水の短歌が書かれていました。先生がどのような御心境でこの作品を御出品されましたかは存じませんが、私には、ふと淋しさがこみあげ、先生がどこか遠くを見つめていらっしやるような感じがしました。今にして思えば、先生は病床にあって、なにか予感していらっしやったのかも知れません。

「竜爪山九条の会」が発足しました時も、みずからの戦争体験より、反戦の思いを強くし、なんとしても戦争はくいじめなければならぬと熱く語っていらっしやいました。

“ 憲法9条 未来をひらく ” の “ 未来をひらく ” というフレーズに心を寄せられ、会の名称を決める折、この言葉を冠してはどうかと提唱されました。

振り返ってみますと、先生は生涯郷土史の研究を重ねられ、その上に様々な文化活動を推進し、未来をひらくために、粘り強く、誠心誠意お力を尽くして、私達を励ましてくださった方でした。

六十年も時を経た今も、先生に教えていただきました小学校時代の思い出が、色褪せず輝いて甦ってまいります。

先生、本当にありがとうございました。在りし日の先生を偲びつつ、ご冥福をお祈りいたします。

本会、世話人のお一人、中川順一郎さんは2008年12月逝去されました。



いのちの山河 ～日本の青空Ⅱ～

あらすじ

監督 大澤 豊

長く無医村であったこの地で、父親から医者になることを期待されながらも村を離れていた深澤晟雄（ふかさわ まさお）はある日、妻と帰郷する。

昔と変わらず悲惨な村の状況を前に晟雄は、何とか村をよくしたいと立ち上がった。

自分達を苦しめている問題を打破しようと村民に語りかけ、自らの信念である『生命尊重』行政の在り方を説き、いよいよ村民の医療無料化に踏み切ろうと決意するが、国民健康保険法違反という壁に突き当たってしまう。

晟雄は、村民のいのちのため、全国に先駆けて何としてでも実現させようと「少なくとも憲法違反にはならない。国がやらないから、村がやるんです！」と憲法25条を盾に、老人・乳児医療無料化を推し進めていく。やがて、全国でも最悪の乳児死亡率だった村が、全国初の乳児死亡“ゼロ”という記録を生み出すまでになる。



沢内村（現・西和賀町）



【老人医療費無料発祥の地の記念碑】

「いのちの灯」(沢内病院前)

竜爪山九条の会は
一口(10万円)の
制作協力者となりました。
タイトルクレジット及びパンフレット
に名前が掲載されます。

1枚1000円の制作協
力券をお知り合いの方に
すすめて下さい。

目標は100枚です。

この券は映画完成後、全国どこでも
(有料試写会を含む)鑑賞できます。
(鑑賞有効期限は2010年12月末まで)

竜爪山九条の会 会計報告

2008年4月1日～2009年1月31日
2009年2月1日 会計 小川峯子

収入	前期より繰り越し	89.364	内訳 現金 45.364 預金 29.000 口座 15.000
	募金	42.000	募金袋等 31.000 振込口座 11.000
	雑収入	6.934	2008.5.18懇親会残金
	事業活動	18.800	ちひろカレンダー 400円×47部
		収入計 157.098	
支出	会場費	2.170	西奈生涯学習センター
	通信・振込・ その他手数料	4.140	
	印刷費	10.374	
	紙・封筒等	7.660	
	分担金	1.000	静岡県9条の会交流会
	慶弔費	3.000	中川様
	謝礼	2.000	岡部様
	事業活動支払い	27.630	発芽玄米等
		支出計 57.704	
	差引額 99.374	内訳 現金 94.074 預金 300 口座 5.000	

「それでも会員の拡大を続けないと」

私は高齢者です。残り少ない人生を今まで通り平和に過ごしたいと考えています。ところがこのささやかな願いを小泉、森、安倍、そして麻生内閣は逆なでする反平和外交を展開してきました。その最たるものが民主の改憲派と組んで2007年に成立した憲法改定の是非を問うと言われる国民投票法です。そんな矢先、静岡東部に「竜爪山九条の会」が誕生したという知らせを聞き入会することにしました。早速入会者の拡大につとめましたと思うようにいきません。それは平和を願う人ならかんたんに入会してくれるだろうという甘い考えがあったからでした。ところが現実には厳しいものでした。相手の質問に答えられない、詰問される、果ては門前払いをくわされるなど散々な目に遭いました。しかしここであきらめたら改憲派の思うつぼです。国民投票法の施行は来年5月18日に迫っています。手をこまねているわけにはいきません。幸いにして救世主があらわれたような気がします。その人の名は「九条の会」のアピールを広げる科学者、研究者の会の呼びかけ人でもあるノーベル賞受賞者、益川教授です。他力本願ですが益川教授の名（力）を借りて一人でも会員を多くふやしたいと考えています。

匿名

2009年4月現在

呼びかけ人	1 3 7 名
賛同者	2 5 1 名
計	3 8 8 名



編集後記
「竜爪山九条の会2周年の集い」は、皆さまのご協力で無事終了する事ができました。感謝申し上げます。当日、会員の方がお庭のミモザを持ってきて下さり、そのふさふさした黄色の花が、会場に春の華やぎを添えてくれました。ミモザの花言葉は「豊かな感受性」だとか。小林豊子先生は「人は、自分の心に抱いている思いを実現するために、その体を使うのではないだろうか」と講演でおっしゃっていました。

さてこれから、映画『いのちの山河』日本の青空』の制作協力券の完売に向け、体を動かしましょう。会報・ホームページに投稿をお待ちしております。

(寺井)